京都府立京都学・歴彩館 海外若手研究員による
府民向けセミナー（開催報告）

２０２２年10月27日
京都府立京都学・歴彩館
０７５−７２３−４８３５

京都府立京都学・歴彩館では、世界とつながる京都学の研究・交流拠点をめざし、国内外からの幅広いアプローチにより京都文化の普遍的な価値を研究、発信するため、2017 年度から、日本研究・京都研究の優秀な海外若手研究者を京都学研究員として招聘しています。

このたび、２０２２年度の京都学研究員による府民向けセミナーを下記のとおり開催しましたので報告します。

記

■ 日　　時　　２０２２年１０月２７日（木）　１３時半～１４時４５分
■ 場　　所　　京都府立京都学・歴彩館 小ホール
■ 講　　師　　京都学研究員　マティアス・ハイエク（Matthias HAYEK／フランス）
■ テ ー マ　　近代における「迷信」の発見
■ 参 加 者　　計８６名

■ セミナーの様子

明治維新後の「文明開化」の中で、それまで多くの民間信仰とともに日常生活の基盤となっていた従来の世界観が「旧弊」とみなされた。占いや呪いの類いなどは「妖怪」と並んで「迷信」の代名詞となり、人々の生活の中から撲滅される対象となった。「迷信」は、近代化の中で新たに成立した概念であり、「科学」や「宗教」という新概念の台頭と深く関係していた。本セミナーでは、「迷信打破」の担い手となった人物の言論や意識に着目し、近世・近代移行期における「迷信」を正しく位置づけることによって、近代化の特質を捉え直そうとする画期的な発表が行われた。

講師の発表のあと、活発な質疑応答が行われ、研究者と参加者の交流を図りつつ、研究内容についての理解を深め、好評を博した。

■ 参加者コメント（抜粋）

- 「深い学びがありました。結論の現世利益的思考の批判が「迷信打破」の対象であったことを知って感銘を受けました。」
- 「視点が新鮮でした。これまで考えたことのない事象に気付きました。」
- 「新しい視点で面白かった。社会が変化する中で、根拠がなくなり否定された考え方が「迷信」とされたように思う。先端科学においても、前提とする仮定はやがて否定される部分もあり、未来の人類からみれば、迷信に過ぎないとされるのではないか。」
- 「現代につながるものもあり、とても興味深かった。時代背景がよくわかりました。」
- 「大変面白かったです。内容も幅広く、興味深い Topic が多かったです。」
- 「専門的な内容も多かったですが、平易に説き明かしてくださったと思います。」
- 「日本人が「迷信」を研究するのではなく、フランス人が研究されていることを、とても嬉しく思いました。京都研究を今後も実践していただきたいです。」
- 「日本人以上に深く研究されている姿勢、日本人も見習うべきと思った。」
- 「興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。」
- 「素晴らしい講演でした。流暢な日本語に感服しました。」
- 「これからもどんどん外国の方の研究発表を聞きたいです。」

府民向けセミナーの様子

会場風景

館長挨拶

ハイエク氏の発表

講演中の様子

参加者との質疑応答

関係資料の紹介展示